



2025/06/16-19

タイ（バンコク）での国際透析学会に評議員、座長、演者として参加してきました。

評議員会ではどの業界でも厳しいとされている経済負担の厳しさを改めて感じました。昨年のインドネシアでの学会でも同様に、東南アジアにおける保険医療のインフラ整備へのサポートは経済成長の伸び率に対して追いついておらず、国民全員に一定の医療提供が出来ていない状況にあるのかもしれません。また、それをサポートする人材も日本同様に少

ないのだなと感じました。皆が少しでも安心して安全な医療提供を受けられる環境整備の構築に学会として少しでも貢献できればいいのですが。

座長業務としては移植医療と透析医療を絡めた内容で、肺移植や腎移植における手術前のドナー（臓器提供者）への透析を用いた脱感作に関してです。移植医療はドナーからレシピエント（臓器不全患者さん）への臓器提供を行う事で患者さんの救命やQOL改善（透析医療からの離脱含め）を目的とします。一方で移植後のレシピエント患者さんは移植された臓器への拒絶反応の観点から免疫抑制剤を生涯に渡って内服する必要があります。今回のセッションでは移植臓器への免疫反応を少しでも緩和する事を目的とした新しい概念です。少しでも患者さんに安全な移植臓器を提供できる様に勤めてまいります。

発表は敗血症における急性血液浄化療法に関してです。これまでも多くの発表機会を頂いておりますが、救急やICU領域での透析医療はまだまだ新分野であり、患者さんの救命率向上に繋がる大事な分野です。この領域を牽引する1人としてこれからも発信を続けていきたいと思っています。

40年前に家族旅行で連れてきてもらったバンコクでの滞在は感慨深いものでした。無事に元気にここまで来れた事、これからも少しでも多くの患者さんの健康管理に携わっていききたいと思っています。

院長 上野琢哉